

クスサン

昼飯にしよう、ということで、弁当が置いてある場所を目指して有明森林の車道を歩いていました。足元に薄緑色の大きな毛虫がいました。どこかで見たことがある懐かしい出会いでした。真上からと真横から撮影してからリリースいたしておきました。道々別の固体も路面を這っていました。この時期終齢幼虫が蛹化する場所を探しまわっているようでした。画像には2014年7月14日11時17分と記録されました。



帰宅して最近蔵書に加えました「イモムシ」ハンドブックで確認しました。クスサンの終齢幼虫でした。九州のわが生家の縁側先にクリの木がありまして、そこで毎年クスサンが育つので幼馴染の毛虫なのです。成虫の大きな蛾の姿もお馴染みでありました。夜、灯火に誘われて飛来してくれますので、捕獲し

て標本箱にいれていました。♂と♀で模様のパターンは同じですが、かなり色ちがいです。固体差も微妙に色に違いがあります。大きくて目立つので毛虫は「白髪太郎」「栗毛虫」と別名があります。



繭にしても「スカシダワラ」との通り名が通用しておりますので、親しまれている様子であります。特には粗い網目の繭ですが、子供の指の力ぐらいでは破ることも潰すこともできません。私は経験していませんが、繭を作る寸前の幼虫から釣りに使うテグスを作ることができるそうです。

この毛虫は偏食性ではなく、結構な雑食性なのです。有明森林の場合、ミズナラ、オニグルミ、ヌルデ、サクラが食草になりますから、飢える心配はありません。大発生しても不思議ではないのです。分布は結構広く日本全土をカバーします。卵で越冬し発生は年に1回のみです。

この日の参加者は7名。刈払機4台と手鎌のサポートで作業歩道を切り開きました。古い^{きま}杉道を生かした部分では昔の人の努力を思いつつ、心地よい大汗を流したことでした。

